

日刊 動労千葉

81.6.29
No.778

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)電話(22)七二〇七

動労『本部』一権力一体の 弾圧・組織破壊攻撃に怒り爆発

6.26 反彈圧総決起集会に 395名が結集

六月二十六日、夕やみせまる津田沼電車区に、「六・一二」デッチ上げ告訴を口実とした動労「本部」・警察権力一体となった卑劣な陰謀策、動労千葉組織破壊攻撃に怒りを燃した各支部組合員が陸続として結集した。集会は、権力・国鉄当局・「本部」反動分子が物かげから息をひそめて見守るなか、権力・「本部」反動分子への怒りと反撃の決意に満ちあふれたものとして終始貫徹された。全組合員のみなさん。六・二六反彈圧総決起集会をうちぬくことにより、「本部」・権力一体となった反階級的暴挙に対する大衆的反撃の橋頭堡が築かれた。さらにデッチ上げ告訴弾劾・被告訴人十名完全防衛・組織破壊攻撃粉碎・銚子支部結成へ総力をもって決起しよう。

被告訴人が反彈圧・「本部」許すまじの烈々たる決意表明

六・二六集会は、津田沼電車区中庭に津田沼支部青年部、学園協の仲間が鮮かな白ヘル姿で陣取り独自集會が行われる。

全体集會は一七時五十分、西森本部執行委員の司會による高らかな開會のあいさつが宣せられた後、関川委員長が本部闘争委員会を代表して「六・一二」デッチ上げ告訴弾劾・組織破壊攻撃に対し満腔の怒りをこめ、全組織力を挙げて粉碎する決意を力強く明らかにした。

続いて、動労「本部」八獄、「千葉地本」山下(庄)、転び屋・革マル分子嶋田誠、斎藤吉らのデッチ上げ・タレコミ告訴によって被告訴人にされた十名のたたかう仲間がそろって演壇上にならびひとりひとりが烈々たる決意表明を行った。

十名のたたかう仲間は、ひとしく「今回の動労『本部』及び革マル分子嶋田誠、斎藤吉らの告訴は一〇〇%デッチ上げであり、七九年四・一七津田沼襲撃、八〇年四・一五スト破り武装襲撃を行い、当局に解雇処分攻撃を正式要請するという労働組合とは無縁な卑劣な組織破壊攻撃に屈せず前進してたたかう動労千葉への最後の手段としてかけてきた許すことのできない反労働者的暴挙である」と断罪し、「八一・三闘争をたたかい抜いた労働者魂をもって敢然としてこの弾圧組織破壊攻撃を最先頭にたつてたたかい、うちぬく」と力強く宣言した。この決意表明をうけた全参加者は、

「動労千葉1300名の最先頭に
立って、徹底的にうちぬく」と、
本部革マル分子、権力への怒りの
戦闘宣言が、全員から表明された。



(6月26日、津田沼電車区)

固くこの十名と動労千葉を守り抜く決意をうちためたのである。

デッチ上げ告訴は「本部」自らが墓穴を掘つた 勝利は鮮明だ

動労千葉と共にたたかう弁護団から「今回の六・一二暴行事件」はデッチ上げであり、かたがず勝利できる。動労千葉が八一・三闘争をたたき、三里塚労働連帯を基軸にたたかう労働運動を全国化する段階にまで前進したのがゆえの追いつめられた動労「本部」のあがきの攻撃である。労働運動の原則をふみはずし、権力に弾圧要請をするにまで至った「本部」自身が墓穴を掘つたといえる」との共にたたかう連帯のあいさつがなされた。つづいて成田支部日暮・佐倉支部堀口両名の支部長が各支部を代表して反撃のたたかいに総決起することを明らかにし、集會のまとめと方針提起が中野書記長より提起され、青年部を先頭とする構内デモを戦闘的に貫徹し、成功裡のうちに集會を終えて、各支部段階でのたたかいに突入すべく解散した。